

羅 針 盤			方 策		点検・評価		達成度		達成状況のまとめ及び次年度の課題		学校関係者評価		
評価対象	評価項目	具体的数値項目	方 策		自己評価	外部アンケート	総合	達成状況のまとめ及び次年度の課題		学校関係者評価			
I 特色ある学校づくりに努めていますか。	1 特色ある教育活動を行っていますか。	①進学重視型の単位制の学校として、教育課程、習熟度別・少人数制の授業形態、自らの考えを深めたり、周りと意見交換し合ったりする授業内容に満足している生徒が70%以上いる。	①生徒の実態に応じた教育課程の編成を行い、また、職員間の研修を活発化させ、幅広い学力を付けさせる授業の実践を行うとともに、55分授業を活かし、授業内での言語活動の充実を図る。	A	A	A	○習熟度別・少人数授業に満足している生徒の割合が90%を越えた。また、授業において学習目標を明確にし、また、主体的に取り組んでいるという生徒が、年次が高まるにつれて増加傾向にある。「授業第一」の理念が職員・生徒に浸透し、ICT・学習端末を効果的に活用した授業を各教員が工夫しながら取り組んでいる。また、次年度からは2・3年次で共通選択科目を設定し、探究・学び合いの活動が充実できるよう、取り組んでいく予定である。		○職員の努力が生徒の伝わり、生徒達のやる気意識が高まり良い成果に繋がっていると思われる。 ○目標値に対し高い達成率となっている為、各取組は効果のある内容となっている。				
		②「みらい学」を中心としたEAST Projectに主体的に取り組んでいる生徒が70%以上いる。					②「エナジード」の活用を中心とした探究活動を、教科学習や学校行事へ活かし、進路意識向上への動機付けとなるよう、教科・分掌間の連携を図る。	C	A	A	○探究学習の中核となる「みらい学」については、生徒の80%以上が積極的に取り組んでいる一方で、共通教材である「エナジード」は教員の負担軽減に一定の効果はあるものの、抽象的な題材も多く、個人ごとの探究・教科横断型の知的活動につながりにくいという側面もある。		○青藍祭を見学しましたが、生徒が主体的に活動していたのがとても印象的でした。生徒の生き生きとした様子、活気あふれる学校の雰囲気は本当に素晴らしいかったです。
		③自分の学校が好きだと感じている生徒が70%以上いる。					③授業を充実させるとともに、特別活動や部活動などの活性化を図る。	A	A	A	○本年度は7年ぶりに一般客を受け入れた青藍祭(文化祭)が開催され、生徒の約3分の1が実行委員として運営に携わるなど、主体的に特別活動に取り組む姿が見られた。また、部活動においても各種大会で入賞や上位リーグ進出などの活躍が見られた。次年度も引き続き、特別活動の充実に向けて態勢を整えていきたい。		○自分の学校が「好きだ」と思う生徒が多いことはとても良いことである。
II 生徒の意欲的な学習活動について適切な指導をしていますか。	2 生徒の実態に応じた指導を行っていますか。	④生徒が授業中主体的に学習するよう授業改善し、「主体的に授業に取り組むことができた」と答える生徒が、70%以上いる。	④ICTを活用しながら、ペアやグループでの言語活動を充実させ、「主体的・対話的で深い学び」の視点に立った授業を行う。	A	A	A	○過去4年間(令和2～5年度)の学校評価一覧表と比較してみたところ、評価項目Ⅱの2については年を追うごとに改善されているのが顕著に出ている。その要因のひとつに、全職員が「授業第一」という言葉を合言葉に学習指導をしているということが挙げられるだろう。調査前に実施しているPDCAサイクルを意識させる取組なども効果を発揮しているようで、今後も継続していく必要がある。		○教職員の教え方の工夫が読み取れた。更なる努力により、生徒達の知識を広めていきたいという職員の願いがわかる。 ○学習意欲について目標が未達成なものの取組の成果は着実なものと感じます。やる気UPプロジェクトの更なる浸透が有効であると思う。 ○授業改善や新しい取組へのチャレンジについては短期での評価は難しいため、中・長期的に成果と課題を踏まえ取組を検討していく必要がある。 ○「授業第一」を合い言葉に先生方が取組を進めていることはとても素晴らしいことですので継続した指導をお願いしたい。				
		⑤自分の学習目標を明確にして、学習に意欲的に取り組んでいる生徒が、70%以上いる。					⑤自分の能力ややりたいことを自覚させるために、探究活動や進路研究を積極的に活用して、生徒各々にとっての学習目標を明確にさせる。また、学習に対するPDCAサイクルについて細かくアドバイスしながら生徒の学習意欲を喚起し、最終的に自分自身でできるようにする。	B	B	B	○生徒の授業に対する姿勢や取組が良かった一方で、確かな学力が身についたと感じている生徒および教職員は、6割程度に留まっている。ただ、年次を重ねることに「確かな学力が身についた」と感じている生徒は増加している。また、授業以外での学習量についても、全年次とも6月と比較して11月に増加していることを踏まえると、定期考査前の検討会や各年次で行っている取組(やる気アッププロジェクトなど)の効果が少しずつ生徒に浸透してきていると思われる。		
	3 生徒は確かな学力を身に付けていますか。	⑥進路目標に応じた学力を身に付けたと自己評価している生徒が70%以上いる。	⑥基礎基本の定着を図るとともに、質・量ともに適切な課題を配付し課外授業を実施する。また、定期考査の質について再確認し、生徒に身につけさせたい学力と授業内容に相違がないかを科目内で共有し、調整する。 ⑦授業以外での学習時間が1時間30分以上の生徒が、70%以上いる。	⑥基礎基本の定着を図るとともに、質・量ともに適切な課題を配付し課外授業を実施する。また、定期考査の質について再確認し、生徒に身につけさせたい学力と授業内容に相違がないかを科目内で共有し、調整する。 ⑦生徒が主体的に活躍できる場を多く設定し、自らの進路に対し学習が必要であることを気づかせ、学習意欲を喚起する。	C	C	C	○今後は教職員の意識改革も必要である。今回の結果を精査してみると、「進路実現できる学力が身についた」と感じている割合は、生徒よりも教職員の方が低い。教職員が考えているよりも、生徒は自分の向上を感じているようなので、教職員自身もさらなる研鑽を積み、生徒の成長に置いていかれないようにする必要がある。					
⑧登下校時、自転車事故に遭わないために交通ルールを遵守している。		⑧係職員と係生徒が中心となり、登下校時の交通指導や交通安全教室等を行うとともに、全職員が積極的に指導に関わる。 ⑨毎日の清掃で気付いた事を話題とし、次回の清掃に生かせるように支援する。						C	A	A	○職員と交通委員の生徒が協力して、登下校時の交通指導や交通安全教室の実施することで、交通安全に対する意識を高めた。今後は、自転車用ヘルメットを着用する生徒が増えるよう取り組み、自転車事故を無くしていきたい。		○大変良く指導が出来ている。 ○交通事故の加害者にも被害者にもならないために継続した指導をお願いしたい。 ○事故防止のために継続した生徒への声掛けをお願いしたい。
⑨校内美化・安全点検を毎月実施している。	⑩ いじめ早期発見に向け、生徒観察、校内巡視及び定期生活アンケート等を行う。また、生徒が悩み等を相談しやすい環境作りに努める。		A	A	A	○清掃で綺麗にすることへの喜びを感じられる生徒が多くなってきた。やらされる清掃ではなく自分たちで積極的に清掃をできるようにしたい。					○個人のやる気を引き出して、とても良い。 ○校舎内外の清掃がとても行き届いている。		
III 生徒の充実した学校生活について適切な指導をしていますか。	4 組織的・継続的な指導を行っていますか。	⑩ 良好な人間関係づくりを実行できている生徒が70%以上いる。	⑩ いじめ早期発見に向け、生徒観察、校内巡視及び定期生活アンケート等を行う。また、生徒が悩み等を相談しやすい環境作りに努める。	A	A	A	○生活実態アンケートを学期に1回実施し、不安や悩み・いじめの有無などを確認し早期発見に努めている。また、スクールカウンセラーへの相談を積極的に促している。今後も生徒の観察・面談等により、生徒の変化を捉えられるようにしていく。		○職員の声掛けは、大変よいことだと思います。 ○生徒の心身の健康づくりに向けて精力的に取り組んでいただいていると感じます。生徒一人一人と向き合っている点も素晴らしいと思います。 ○遅刻者の対応はとても大切な指導の一つと考えます。社会において決められた時間を守ることは基本中の基本です。				
		⑪ 1日の平均遅刻者が全生徒の2%以下である。					⑪ 遅刻者記入カードを活用し、遅刻常習者には保護者と連携して、個別の指導・支援を行う。	B	B	B	○職員が定期的に登校の様子を見守り、声かけをしている。また、遅刻者記入カードにより、職員から声かけができています。今後も声かけを継続していく。		
	5 学校はいじめの防止や早期発見に向けた取組を積極的に進めていますか。	⑫ 自身の健康管理に関心を持って生活する生徒が70%以上いる。	⑫ 「保健だより」や、教育相談等で生徒の身体面・精神面を支援する。受診率の向上に努める。	A	A	A	○検診後すぐに受診の勧めを渡すことで受診率は向上している。担任と保健委員の連携を深めることでさらに自身の健康管理に興味関心を持つ生徒が多くなると考える。						
IV 生徒の主体的な進路選択について適切な指導をしていますか。	7 計画的な指導を行っていますか。	⑬ 担任と生徒の二者面談を年2回以上、保護者を加えた三者面談を年2回(1・2年次は1回)効果的に実施する。	⑬ 進路希望調査や模試結果などの事後指導を通して、現状を生徒に正しく認識させ、主体的な進路選択に必要な材料を蓄積させる。 ⑭ 進路に関わる情報提供が役に立っていると考える生徒が70%以上いる。	A	A	A	○昨年度に引き続き、自己評価・外部アンケートともに高い達成度である。どの項目も昨年度にかなり改善され、今年度もそれらもうまく継続できたことが表れている。昨年度にも述べたが、一番大きな要因は「コロナ禍の収束」が挙げられるが、担任を中心とした全職員の生徒への細かな声掛けや進路指導も同様に、大きな要因のひとつであろう。生徒の進路希望に沿ったキャリア教育部からの情報提供なども功を奏した。今後も継続していきたい。		○進路指導は、大変よく指導が行き届いていると思います。引き続きよろしくお願ひします。 ○次年度の課題も明確になっており、更なる主体性の向上を期待しています。 ○先生方の日々のキャリア教育・進路指導の様子が学校評価の結果から読み取れます。懇切丁寧な指導の賜と考えます。 ○校外での活動を増やすことは、今後の進路へ役立つことが多いと感じるので積極的に経験を積みさせることを検討してもらいたい。				
		⑭ 自己の在り方生き方を考え、主体的に進路を選択することができるように努力をしている生徒が、70%以上いる。					⑭ キャリア教育に関する行事の際に、事前事後の指導を徹底するとともにキャリアパスポートを活用して、自己の活動について振り返らせ、改善に役立てられるようにする。また、生徒が自らの進路について「自分ごと」と考えられるように行事内容の改善を図っていく。	B	A	A	○次年度の課題としては、生徒自身が主体的に進路について取り組む姿勢を伸ばしていくことであろう。評価に出ているが、生徒の主体性については改善の余地がある。以前より課題となっているが、本校生徒は校外で活動をする生徒が少ない。もっと積極的に外部や他校の生徒と交流する機会を増やし、外部から刺激を受けることで、より主体的に自らの進路について真剣に考えられる力を養っていきたい。		
	8 生徒は自らの進路について真剣に考え、その実現に向けて取り組んでいますか。	⑮ 本校の教育活動や取組を保護者や地域のみなさんに理解してもらうために、学校のホームページを適時更新し、更新率が70%以上である。 ⑯ 各年次保護者会や保護者向け講演会等に参加したことがある保護者が70%以上いる。	⑮ 年度当初に今年度更新すべき行事等とその担当係を教職員と共有し、各行事が終了する毎に、最新の情報を提供する。また部活動の活動状況についても各部の最低限のホームページ更新回数を決め、適宜情報発信できるようにする。 ⑯ 他の分掌や年次と協力し保護者にとって魅力ある内容及び参加しやすい環境になるように検討するとともに、開催内容等の周知を徹底する。	D	C	C	○HPの更新率が44%であった。学校行事の掲載はよくできているが、部活動では部による差が大きい。結果を残せた部や特徴ある取組をしている部では掲載しやすいが、それ以外では掲載する内容が乏しくなかなか更新できない現状があり、全体として掲載率が伸びていない。保護者アンケートにもHPでの情報発信を求める声もあつたので、各部の普段の活動の様子も含めて掲載するようもう一度職員と共有し、積極的な情報発信に努めたい。						
V 開かれた学校づくりに努めていますか。	9 家庭、地域社会に積極的に情報発信をしていますか。	⑰ 各年次保護者会や保護者向け講演会等に参加したことがある保護者が70%以上いる。	⑰ 他の方針や年次と協力し保護者にとって魅力ある内容及び参加しやすい環境になるように検討するとともに、開催内容等の周知を徹底する。	C	D	D	○コロナ禍や教員の働き方改革での行事の精選により、保護者会や講演会の実施がほとんどなかった。具体的にはPTA総会と2年次修学旅行説明会だけとなり、多くの保護者に参加してもらえない現状がある。今後、来校者一同に集まる方法以外でも保護者に学校の様子や進路情報などを伝える工夫をする必要がある。		○良くも悪くも情報発信し、生徒達にさらなる努力を求めて結果を出すよう指導が必要と考える。 ○HPの更新は学校紹介にとっても重要だと思います。一方で職員の方々の負担も踏まえ改善策を検討して欲しいです。 ○様々な学校の情報発信は保護者・生徒・地域への正しい認識(イメージアップ)に繋がります。無理なく努力を掛けずに出来る情報発信の方法を考えましょう。 ○PTAと連携した取組として何が出来るか検討が必要である。				
		⑱ ICTを活用した授業に、生徒の70%以上が満足している。	⑱ ICTを活用した授業に、生徒の70%以上が満足している。	C	A	A	○今年度は、持ち運びしやすい小型のプロジェクターの台数を増やしたり、学習支援用コンピュータの更新時に使いやすい設定にしたりした。また、新入生端末のBYOD化にスムーズに対応できるよう、全教職員で接続指導を実施するなどして、ICTを活用するための環境を整えてきた。技術面や活用方法の支援に於いては、特に電子採点システムの利用方法について、オンライン研修の紹介、スキャナー利用のマニュアル作成、説明会、新プリンターの利用方法など、段階的に必要な情報提供を行った。						
VI 教育デジタル化に努めていますか。	10 ICTを活用した指導を行っていますか。	⑲ ICTを活用した通知に、生徒の70%以上が満足している。	⑲ 職員がICTを活用しやすいように環境整備に努め、利用にあたっての技術情報などを伝達する。	A	A	A	○次年度の課題は、生徒のアンケート評価が高いことに安心することなく、情報漏洩やセキュリティ対策などの危機管理に注意した更なる業務改善に努めたい。		○今年度の反省と課題を次年度に向けて改善し、継続した取組を行って欲しい。 ○様々な工夫をしていただいていると感じました。継続的な取組をお願いします。 ○ICTの活用は、教師の能力の一つですが、ICTに頼り過ぎない事も重要と考えます。時にはアナログなものもかえって新鮮かもしれません。 ○デジタル化は教職員の業務負担軽減に役立つ取組ではあるが、生徒への適正なルール決めが必要である。				
		11 ICTを活用した業務改善を行っていますか。	⑲ ICTを活用した通知に、生徒の70%以上が満足している。	⑲ 職員がICTを活用しやすいように環境整備に努め、利用にあたっての技術情報などを伝達する。	A	A	A						